

城「都城」と市町村変遷の歴史

※太字は日本の主な出来事

時代	年	出来事	
南北朝	永和元 1375	北郷義久、都城築城	
戦国	天文12 1543	北郷忠相、都城盆地を掌握	
安土桃山	天正15 1587	島津氏、九州制覇目前で豊臣氏に降伏	
	文禄4 1595	北郷氏に代わり伊集院氏が都城入城	
	慶長4 1599	島津氏と伊集院氏の合戦（庄内の乱）	
	慶長5 1600	北郷氏、都城に復帰	
江戸	慶長8 1603	徳川家康が征夷大将軍に任命	
	慶長19 1614	高城郷・山之口郷が鹿児島藩直轄領に	
	元和元 1615	江戸幕府、一国一城令を各大名に通達 都城とその他盆地内の城を廃止	
	延宝8 1680	高崎郷が藩直轄領に	
明治	慶応3 1867	徳川氏、政権を天皇に返還	
	明治4 1871	明治政府、廃藩置県と改置府県を実施 鹿児島県設置（都城地域は鹿児島県） 鹿児島県を分割して都城県設置	
	明治6 1873	都城県を廃止し宮崎県設置	
	明治9 1876	宮崎県を廃止し鹿児島県に統合	
	明治16 1883	宮崎県再設置	
	明治21 1888	市制・町村制公布	
	明治22 1889	都城町、沖水村、五十市村、志和池村、 庄内村、中郷村、山之口村、高城村、 山田村、高崎村、三股村の1町10村が 誕生	
	明治24 1891	庄内村から西岳村が分村	
	大正	大正13 1924	都城町が市制施行により都城市に 庄内町誕生
	昭和	昭和9 1934	高城町誕生
昭和11 1936		沖水村と五十市村が都城市と合併	
昭和15 1940		高崎町誕生	
昭和28 1953		山田町誕生	
昭和31 1956		庄内町と西岳村が合併し庄内町が誕生	
昭和32 1957		都城市と志和池村が合併	
昭和39 1964		山之口町誕生	
平成	昭和40 1965	都城市と庄内町が合併	
	昭和42 1967	都城市と中郷村が合併	
	平成18 2006	都城市・山之口町・高城町・山田町・ 高崎町が合併し新都城市誕生	

新市誕生
20周年
記念事業

都城歴史資料館 都城築城650年記念特別展

城から町、そして市へ

都城市鳥瞰図（吉田初三郎作）
市制施行以降の都城市街地が上空から
見下ろすように描かれている



都城県印章／明治4
(1871)年11月から
同6(1873)年1月
までの間設置され
た、都城県の印鑑

近現代の市町村再編・新市誕生
近代日本は、明治新政府による新しい行政制度の下、近代化への道を歩み始めます。
藩領域の解体や新しい行政区分である県の設置が進められる中、一時的に都城県が設置されるなど、都城盆地の行政区域は、明治16（1883）年の宮崎県再設置まで揺れ動きました。



学校日誌／明治・大正期の山田村の
生徒数や行事が記された学校日誌

そして、明治21（1888）年の市制・町村制による明治の大合併や、大正・昭和の市制・町村施行と合併を経て、平成18（2006）年に、1市4町の合併による新都城市が誕生しました。

本年度は、市名の由来となった「都城」の築城から650年の節目の年。そして、本年1月には新市誕生から20年を迎えました。
霧島連山と鰐塚山地に囲まれた盆地である本市は、時代ごとの勢力抗争や支配体制の変化により、分割と統合を重ねてきました。古代は島津荘の一部として発展し、中世はさまざまな武家勢力の合戦の場となりました。その後、近世の島津氏と都城島津氏による統治や、近現代の大規模な行政区域の変更などを経て、現在の都城市になりました。
本展示では、市内各地域がたどった歴史と発展の様子を、各地に残された歴史資料や写真を交えて紹介します。

この機会に、私たちが暮らす都城になるまでの歴史に思いをさせてみませんか。
◎問い合わせ 文化財課
☎23-9547



都城盆地における城の形成と発展
永和元（1375）年、北郷家（後の都城島津家）2代北郷義久が、現在の都島町に「都城」を築城。この頃から島津氏の都城盆地進出が本格化しますが、そのころには、既にさまざまな勢力が乱立していて、肝付氏の「高城」や、相良氏の「山田城」、土肥重重の居城といわれた「山之口城」などが築かれていました。
16世紀中頃、北郷氏が都城盆地を統一すると、周辺の城は島津氏の勢力下に入り、「都城」を中心とした「庄内十二外城」に発展していきます。

上：日和城図（パネル展示）／寛政10(1798)年に、高城の月山日和城の図面を写し記したもの
下：文政七年名勝志御札方二付取調帳日州諸郡山之口（パネル展示）／文政7(1824)年に山之口で作成された、山之口の史跡や歴史を記録した地誌



帖佐人形（左：力士、右：御高祖頭巾）／高崎町前田にある江戸後期の墓・谷川共同墓地で発見された土人形

廃城後における城名称の継承と地域の発展
元和元（1615）年の一国一城令により、「都城」を含む都城盆地内の城は全て取り壊されますが、城の名称は地域の名称として引き継がれました。その背景には、鹿児島藩の地域支配制度である「外城制度」や、都城地域を治めた都城島津家による「五口六外城制」などが影響して、それらの制度下で村や町が形成され、発展していきました。

特別展の概要

- 会期 5月24日(日)まで
- ※月曜日休館（祝日の場合翌日）
- 開館時間 9時30分～17時
- ※入館は16時30分まで
- 入館料 一般220円（160円）、高校生160円（110円）、小・中学生110円（50円）
- ※（ ）内は20人以上の団体料金

関連イベント

- 【お城で新春（無料）】
- 日時 1月12日(月) 10時～15時
- 内容 すごく（事前申込制）、むかしのアソビ体験、人力車乗車体験、民具体験
- ※イベント開催中の10時～15時は入館料無料。申し込み方法など詳しくは、特別展特設ページを確認ください
- 【オリジナルグッズ初披露】
- 新市誕生20周年と都城築城650年を記念した3Dガチャガチャや都城泉ヶ丘高校の生徒考案のキーホルダーなどを販売します。



特別展
特設ページ



都城歴史資料館
公式インスタグラム